

第6学年 道徳学習指導案(パイロット授業)

指導者

- 1 主題名 ほんとうの親切
- 2 資料名 車いすの少女 2-(2) 思いやり・親切(大阪書籍)
- 3 指導観

○ 本主題は、困っている人を見ると相手が置かれている状況をよく観察そして理解しながら、行動するだけではなく表情や態度、言葉で親切にできることに気づくことをねらいとしている。

思いやりとは、困った人に対する共感や同情であり、慈しみの気持ちである。思いやりの対象は不特定多数で、それらとの間には利害関係は成り立たない。一方、この気持ちが行為となって現れるのが親切なのである。この行為とは、手を貸して親切にすることをはじめ、言葉をかけてまたは態度や表情といった直接手を貸さないものも含む。相手の状況を的確に把握し、相手が望んでいる方法で親切という行為を選択していくことが求められる。

本主題は2-(2)「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。」という価値を含んでいる。この価値は次のように発展する。低学年の2-(2)「身近にいる幼い人や高齢者に温かい心で接し、親切にする。」が中学年の2-(2)「相手のことを思いやり、親切にする。」へ、そして高学年の2-(2)へと発展する。低学年段階では、共感や同情までは無理があるために温かい心を、中学年以上では親切な心を大切に扱うとともに、親切の対象を低学年では身近な高齢者や幼い人、中学年では相手、高学年では誰にでもというように学年が上がるに従って対象が広がっていくのである。

本資料は、車いすの車輪が道路のくぼみに落ち込んで身動きがとれなくなった少女の姿を見て思わず手を貸そうとした私は、少女の母親から「手伝わないで。」と言われ腹を立てるが、やっとのことで自力でくぼみから抜け出した少女の姿に涙を流している母親を見てはっとするという話である。

本資料を活用することは、手を貸すことが親切と思っているこの時期の子どもたちの親切に対する概念を崩し、本当の親切について考える上で有効があると考えられる。

○ 本学級の子どもたちは、マンションのエレベータで重い荷物をもったお年寄りに「何階ですか。」と声をかけ、代わりに行き先のボタンを押してあげたり、道に迷っている見ず知らずの他者に自分から声をかけて道案内をしてあげたりといった親切の体験をしている。そのような子どもたちの中にも、「かわいそうだ。自分が何とかしなくては。」と心を揺れ動かしながら、すぐに親切にできた体験と「恥ずかしいな。」「何と言って声をかければいいのか分からなかった。」と迷いながら親切にした体験に類型化できる。迷いながら親切にした子どもの中にも「本当に自分がしようとしていることが今相手にとって必要なのかどうか迷った。」という本主題に関わる体験をした子どももいる。

1学期の道徳の学習を通して、親切にすると相手だけではなく自分自身もうれしくなれることに気づいている。しかし、ほとんどの子どもが手を貸すことが親切だという認識が強いと考えられる。このような子どもの実態だからこそ、手を貸さない親切もあることに気づかせ、親切とは相手の状況をしっかりと判断し、行動や態度、表情、言葉を使い分けていくことの大切さを理解させていく

ことは意義があると考え。

- 本主題の指導にあたっては、手を貸そうとしたのに少女の母親から「手伝わないで。」と言われた私の心情を押し量りながら、手を貸すことだけが親切ではないんだということに気づかせ、私や少女にとっても「気持ちよくなる。」ための親切の仕方を身につけさせていきたい。そのためには、導入段階で「本当の親切とは一体どんなことなんだろう。と課題意識をもつために「自分がしようと思うことが相手にとって必要な親切なのか」迷った体験について話し合う活動を位置付ける。展開前段では、少女の母親から「手伝わないで。」と言われた私の心情を押し量りながら親切には手を貸さないものもあることに気づかせていきたい。そのためには、少女の母親から「手伝わないで。」と言われた時の私の心情について自分の立場を明らかにしながら異質グループによる話し合い活動を仕組んでいく。その際、「もう知らない。」と「ごめんなさい。」という2つの気持ちを「とても思う。」と「どちらかというと思う。」の2段階に分けた心のものさしを提示して自分の価値のとらえ方の変容を確かめさせていく。また、自分の体験を生かし結果の予測をしながら自分の考えを表現できるように「話し合いカード」を提示する。さらに、自分と他者の両者にとって気持ちよくなる親切を身に付けさせるために資料の状況を再現した場で模擬体験を位置付けていく。展開後段では、本主題に含まれる価値の自覚を深めさせていく。そのためには、相手のことを考えて親切にした経験について話し合う活動を位置付ける。終末では、把握した価値の大切さを確かめ、実践意欲を喚起していくために「心のノート」のp44を読む。本主題の指導にあたっては、複数時間扱い（2時間扱い）としていく。

4 本時の目標

- 道路のくぼみに一輪車のタイヤを脱輪させて一生懸命に抜け出そうとしている少女を見て、手を貸そうとしたときに少女の母親から「手伝わないで。」と言われて腹を立てる私が置かれている状況を的確に理解できる。
- 「手伝わないで。」と言われたわたしの心情を「もう知らない。」と「ごめんなさい。」という2つの心のものさしをもとに押し量りながら、親切には行動や態度とともに言葉や表情で届けるものもあることに気づくことができる。
- 手を出さない親切の仕方を身に付け、手を出さなくても自分も相手も温かくなれることに気づく。

5 授業仮説

困っている人に手を貸して自分もうれしくなった体験をもつ子どもたちに、次の手立てを講じれば、ズレを生み出しながらかめあてを把握し、資料中の主人公が置かれている状況を的確にとらえ、相手の立場に応じた親切の届け方があることに気づき、手を貸さないで表情や言葉で親切を届ける方法を身につけることができるであろう。

手立て1 手を貸すことが相手のためになるかどうか迷いながら親切にした子どもの体験の提示

手立て2 主人公が置かれている状況をキーワードで示した短冊の提示

手立て3 価値に迫るための異質グループでの話し合い活動

手立て4 自分も他者も気持ちよくなれる手を貸さない親切の仕方を身に付ける模擬体験活動

6 準備

子ども：「心のノート」、付箋紙、道徳ノート、筆記具

教師：資料、場面絵、心のものさし、ネームカード、短冊、車椅子、道路のくぼみを作り出すためのたたみ（2枚）、BGM、付箋紙など

7 展開 (全2時間, 本時は2/2時間)

分	子どもの学習活動	教師の支援活動	目標の達成度を見取る評価規準
8	1 迷いながらも親切にした体験ならびにめあてについて話し合う。 めあて 本当の親切について考えてみよう。	※ ズレを生み出しながらめあてを把握させるために、相手のためになるかどうか迷いながら親切にしようとした体験を提示する。	○ 「手を貸さない親切なんてあるのだろうか。」「手を貸す、貸さないどちらが本当の親切なのだろうか。」といったズレを生み出す言葉を発している。 ○ 資料を読んで、「どうして少女の母親は手伝わないとやったんだろう。」と疑問をもったり、「そのときの私はきっと怒ったに違いない。」と自分の考えを述べている。
12	2 資料を読んで、私の心情について話し合う。	※ 私が置かれている状況を的確に把握させるために状況をキーワードで示した短冊を提示する。	○ 「放っておけない。自分が手伝わないと。」と困った少女を助けようとする私の心情に共感している。
18	(1) 資料を読む。 (2) 脱輪して困っている少女を見た私の心情について話し合う。	※ 困っている少女に手を貸したいという私の気持ちに共感させるために、自分の体験を根拠に私の心情を推し量らせる。 ※ 「もう知らない。」(既存の価値を重視する立場)と「ごめんなさい。」(新しい価値に気づく立場)の2つの気持ちから私が揺れ動いていることに気づかせるために「心のものさし」を提示する。	○ 「実は、私にも同じような体験があり、そのときこんな気持ちだったから。」と体験をもとに私の心情を推し量っている。
45	(3) 「手伝わないで。」と言われたときの私の心情について話し合う。		○ 「この前、手伝わないでと言われたときの私の気持ちについて考えたんだ。」と前時の学習内容を振り返る言葉を発している。
5	1 前時を振り返りながらめあてについて話し合う。 めあて 自分も相手も気持ちよくなれる親切について考えよう。	※ 前時の学習を想起しやすくするために、流れ図を提示する。 ※ 自我関与を図らせるために「心のものさし」にプレートを貼付させる。	○ 『ぼくは「もう知らない。」の2の気持ちだ。』と自分の立場を明らかにしている。 ○ 『私は、ありがた迷惑だから「ごめんなさい。」という気持ちだと思うよ。』というように心情とその理由を述べている。
20	2 価値について話し合う。 (1) グループで私の心情について話し合う。	※ 多様な見方や考え方に触れやすくするために、異質グループを編制しておく。 ※ 自分の体験を根拠にわたしの気持ちを推し量らせるために話し合いカードを提示する。	○ 「手を貸さない親切ってあるんだ。」と価値を把握した発言をしている。
30	(2) 全体で価値について話し合う。	※ 価値に迫らせるために全体での話し合いにおいては意図的指名をする。	
40	(3) 模擬体験をする。	※ 自分と他者にとって気持ちがよくなる親切の仕方を理解させるために模擬体験を位置付ける。	○ 「これならば私も少女もうれしくなれる。」と模擬体験を通して自分と他者の心情から是非の判断している。
43	3 自分を振り返る。		
45	4 「心のノート」を読む。(P44)	※ 把握した価値の大切さを再認識させるために「心のノート」を読む。	

8 板書計画

9 道德ノート

10 資料